

中学校外国語科において目的・場面・状況に応じて 適切な語彙や表現を用いて伝えられる生徒の育成

ー中間評価を生かした会話活動の設定と“My Useful Words & Phrases”の活用ー

前橋市立宮城中学校 小池 賢一

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語編では、コミュニケーションを行う際は、その目的や場面、状況などを意識し、簡単な情報や考えなどを理解したり、理解したことを活用して表現したり伝え合ったりすることが重要になる（筆者要約）とある。このことから、単元末の活動やそれに至るまでの言語活動や文法指導の場面でも、なぜその活動をするのか、どのような状況下でその英語を使うのかを生徒が意識できるようにすることが重要であると考え。加えて、コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて生徒自身が、どのような表現を使えば相手に伝わるのかを考えたり、内容を膨らませたりすることも重要であると考え。

本校では、コミュニケーションを行う目的・場面・状況の中で、自分の思いや考えを表現することを苦手とする生徒が多い。その理由として、言語活動において、内容が思い浮かばなかったり、伝えたいことがあっても、それを英語で伝えるための語彙が不足していることで、自分の思いや考えが伝えられなかったりするといったことが挙げられる。このような現状は、教師が、単元末の言語活動に向かうための指導の中で、語彙（単語や連語等）と表現（文法事項や定型表現等）を広げるための場の設定や、語彙や表現を生徒自身が蓄積したり、活用したりする機会が不十分なことが原因であると考えられる。

これらの課題を踏まえて、本研究の主題を「中学校外国語科において目的・場面・状況に応じて適切な語彙や表現を用いて伝えられる生徒の育成」と設定した。

II 研究のねらい

中学校外国語科の授業において目的・場面・状況に応じて適切な語彙や表現を用いて伝えられる生徒を育成するために、中間評価を生かした会話活動を設定したことで語彙力、表現力を高めるためのワークシート“My Useful Words & Phrases”を活用することの有効性について、授業実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

中学校外国語科の指導において、目的・場面・状況に応じて適切な語彙や表現を用いて伝えられる生徒を育成するための具体的な手立てとして以下の二つを挙げる。

【手立て 1】中間評価を生かした会話活動の設定

目的・場面・状況に応じて適切な語彙や表現を用いて会話ができるようにするために、単元末の言語活動につながる毎時間の会話活動のトピックを構成するとともに、一単位時

間の中で「会話活動1－中間評価－会話活動2」という学習形態を設定する。

【手立て2】“My Useful Words & Phrases”の活用

本研究では、一単位につき一枚、中間評価や家庭学習で学んだ語彙や表現を蓄積するワークシート“My Useful Words and Phrases”（以下「MUWP」）を配付し、会話活動や単元末の言語活動で活用できるようにする。

IV 実践内容

本研究では、中学校第3学年2学級（51名）の外国語「Unit5 Plastic Waste」（全10時間）において授業実践を行った。

1 【手立て1】中間評価を生かした会話活動の設定

(1) 実践の概要

本研究では、一単位時間の中で「会話活動1－中間評価－会話活動2」という形態で会話活動を実施した。中間評価では、生徒が自己の課題を捉え、目的や場面に適した語彙や表現を使えるようにするために、会話活動1での生徒の困り感に応じて、図1の中間評価の支援例の中から教師が内容を選択し支援を行った。授業内で会話活動を「Talking Master」、中間評価を「Lv.UP TIME↑↑」と呼称した。Unit5は環境問題が題材であったため、教科書に即したプラスチックごみ問題と生徒が総合的な学習の時間で学習したSDGsに関連付けた食品ロス問題で会話活動のトピックを構成し、単元末の言語活動で使える語彙や表現を毎時間少しずつ蓄積できるようにした（表1）。また、表1にあるように教師が用意した写真で話す、自分で用意した写真で話す、写真で示した問題の解決策まで話すなど、話し合う目的をトピックごとに、少しずつ変えることで目的・場面・状況に適した語彙や表現を意図的に使えるようにした。

第4時は、「Describe a picture」というトピックで会話をした。第2・3時で教科書の内容に沿ってプラスチックごみ問題を扱ったが、第4時から単元末の言語活動につながる食品ロスに関する問題を扱った。そして、「お互いに食品ロスに関するプレゼンテーションをし、クラスで取り組む解決策を考えよう」を単元末の言語活動として設定した。会話活動1では、教師が用意した写真をどのように説明したらよいか考えが浮かばず、あまり会話が進まないペアが見られた。そこで、生徒の会話活動1での困り感を解消するために中間評価で、言いたかったが言えなかった語彙の確認や表現の共有、新出言語材料の活用方法の確認などを意図的に行った。会話活動2では中間評価で学んだ語彙や表現を用いて、会話をする姿が見られた。

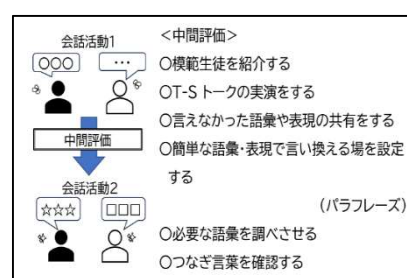


図1 中間評価の支援例

表1 会話活動のトピック

時	Topic
1	Food Loss and Waste
2	Plastic Waste
3	What can we do for the plastic waste?
4	Describe a picture (教師が提示した写真について話しをする)
5	What can we do for the food loss and waste? (教師が提示した写真について、前回の続き) 解決策
6	Talk about your picture (自分で用意した写真について話しをする) 現状
7	Talk about your picture (自分で用意した写真について話しをする) OPINION
8	Food Loss and Waste in MIYAGI
9	Food Loss and Waste in the world

(2) 結果と考察

第4時の会話活動1で、生徒Aは生徒Bとほとんど会話ができなかった(表2)。生徒Aは規格外野菜が売り物にならないと伝えたかったが、語彙や表現が不足していたため、伝えることができなかった。その後の会話活動2で生徒Aはペアでの会話の中で「Vegetable which we can eat, but farmer can't sell.」という表現を用いて会話を行った(表2下線部)。このような姿が見られたのは、中間評価で「farmer」という語彙を獲得したり、関係代名詞の使い方を確認したりしたことによって、規格外野菜を「食べられるが農家が売ることができない野菜」と相手に伝わりやすい表現にできたことが要因だと考える。また、生徒Aは、表2で使った語彙や表現以外にも単元を通して会話活動の目的に応じて多様な語彙や表現を使い、単元末の言語活動での発表(表3下線部)に生かしていた。実践後の生徒アンケートでは、会話活動を通して、語彙や表現が増えたと捉えた生徒は、83.7%であった。また、生徒の単元末の感想では、「中間評価で必要な単語、表現を得ることができた。それらを使って会話活動2で活用できた」「(前略)会話活動を何回かやっていくうちに、プラスチックゴミ・食品ロスなどに対する自分の意見をもつことができた」という記述があった。生徒Aで見られた様子は、他の多くの生徒でも見られたことが生徒のアンケートから分かる(p.115 資料3)。これらのことから、中間評価を取り入れた会話活動を設定したことで、生徒は一単位時間の中だけでなく、単元を通してテーマに適した語彙や表現を考えながら相手に伝えることができたと考える。

表2 会話活動 “Describe a picture”

会話活動 1	生徒A	This is cucumber. Cucumber. Cucumber is bent. <u>we 農家って何て言うんだ?</u>
	生徒B	分からない。後で調べよう。
	生徒A	<u>売る人がdon't sell.</u>
	生徒B	don't sell? can't sell?
	生徒A	can't sell!! But we eat this. We can eat this.
会話活動 2	生徒B	We can still eat vegetable.
	生徒A	This is vegetable which farmer can't sell. <u>Vegetable which we can eat, but farmer can't sell.</u> <u>So, we...</u>

表3 生徒Aの発表の内容

This is a picture which shows us the amount of food aid in the world per year and food loss and waste in Japan per year.
Food loss and waste in Japan is bigger than the amount of food aid in the world.

2 【手立て2】“My Useful Words & Phrases” (MUWP) の活用

(1) 実践の概要

MUWP は、会話活動の中間評価の場面と家庭学習で単元末の言語活動へ向けた語彙や表現を蓄積し活用するシートである(図2)。会話活動の中間評価ではイメージマップなどを活用したり、模範で発表した友達同士の会話を聞いたりして、生徒は必要な語彙や表現を MUWP に蓄積した。また、家庭学習でも語彙や表現を蓄積してくるよう促した。蓄積した語彙や表現は会話活動や単元末の言語活動で自分の思いや考えを伝える際に活用できるようにした。また、教師がホワイトボード「Teacher's MUWP (p.114 資料1)」に生徒から提案された語彙や表現を書き溜めたり、生徒の会話活動に必要なだと捉えた語彙や表現を意図的に提示したりして Teacher's MUWP を充実させることで、生徒自らが必要な語彙や表現を選択して各自のシートに蓄積できるようにした。また、単元末の言語活動終了後には、MUWP にある語彙や表現のうち、使うことができたものを生徒がチェックする時間を確保

My Useful Words & Phrases	
語彙	表現

図2 My Useful Words & Phrases

したことで、単元を通して蓄積してきた語彙や表現をどれだけ活用しているかについて生徒自身が気付くことができるようにした。

(2) 結果と考察

生徒Cは、1時間目の中間評価で、食品ロスというテーマについて、話す内容を考える際に、他の生徒から提案された語彙や表現を日本語で MUWP に記述し、家庭学習で英語にして蓄積していた。また、生徒Cは食品ロスを説明するために、多くの食品が廃棄されていることを伝える必要があると考え、Teacher's MUWP から、必要だと感じた語彙や表現を中間評価の場面で、自分の MUWP に書き溜めていた（図4下線部）。単元末の言語活動では、プレゼンテーションの中に MUWP に蓄積してきた「throw away」「eatable」「Do you like?」や関係代名詞を使った表現などを生かす様子が見られた（図5下線部）。このような生徒の様子は、他の生徒でも見られた。また、アンケートの「プレゼンテーションに役立ったと感じるものは何ですか」の項目で、MUWP（自分のもの）を選択した生徒は 91.8%であった（p.115 資料4）。また、単元の感想では、「授業の前日に自分が言いたいことに合った語彙や表現を調べてくるように心がけることができた」「MUWP に書いた授業で習った単語などを有効活用できた」「今回は、MUWP をたくさん活用することができたので、よい学習ができたと思った」など MUWP の活用に関する肯定的な記述も見られた。これらのことから、MUWP に語彙や表現を毎時間蓄積し、それを活用する場面を設定したことで、会話活動や単元末の言語活動で適切な語彙や表現を用いて会話をすることができたと考える。

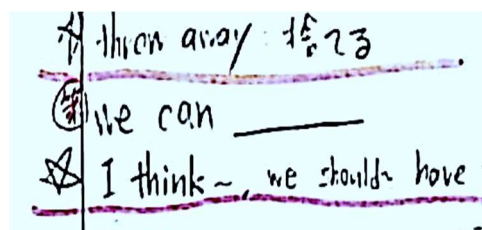


図4 生徒Cの MUWP

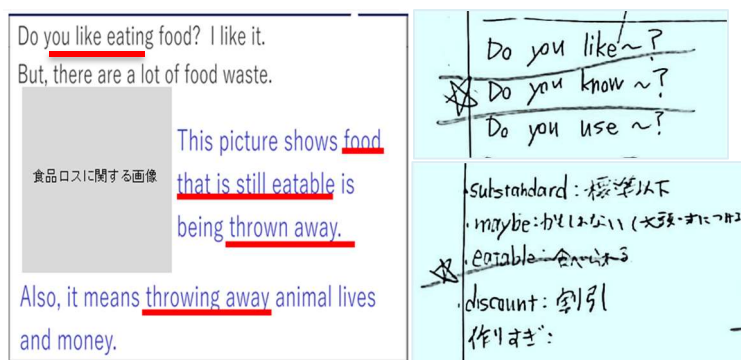


図5 生徒Cのプレゼンテーション資料とMUWPの切り抜き

V 研究のまとめ

1 研究の成果

中間評価を生かして新たに得た語彙や表現を使用しながら会話活動を行ったことで、1回目の会話よりも、2回目の会話の質が向上した生徒が増えた。また、“My Useful Words & Phrases”を活用したことで、会話活動や単元末の言語活動に向けて語彙や表現を生徒が自発的に蓄積したり、それらを活用したりする姿が見られた。

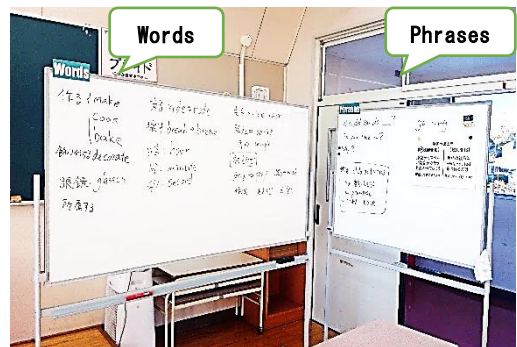
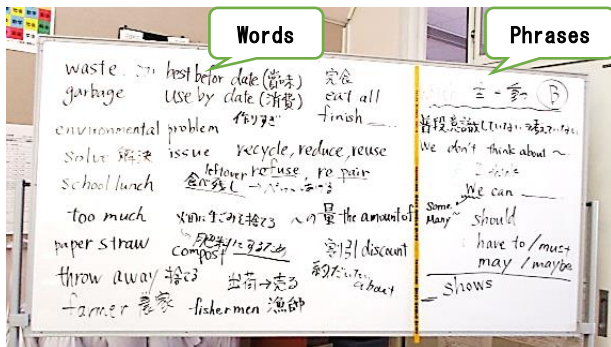
2 今後の課題

生徒が用いた表現の正確さについて確認する時間をあまり設定できなかったため、正確さを確認するための時間を設定する必要がある。

【資料 1】 Teacher' s MUWP

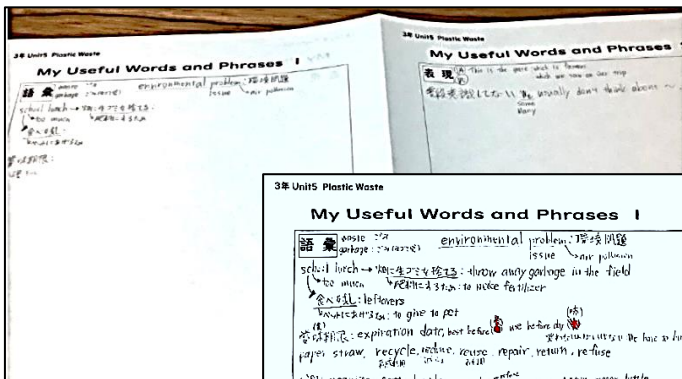
「Teacher's MUWP」は、生徒が会話活動や単元末の言語活動に必要な語彙や表現を教師が蓄積するボードである。教師が生徒に使ってほしい表現を意図的に加える場合もある。中間評価等の場面で「Teacher's MUWP」に示した、語彙や表現を取り入れる様子が見られた。

「Teacher' s MUWP」は移動式ホワイトボードを使っている。本校は各学年2クラスのため、1クラス一面を使って、一台で1学年分として使用できる。ホワイトボードを使うことで、毎時間保存できる。当初は、一台で語彙と表現を書いていたが、現在は右の画像のように大きいものと小さいものをそれぞれ語彙用、表現用と使い分けている。

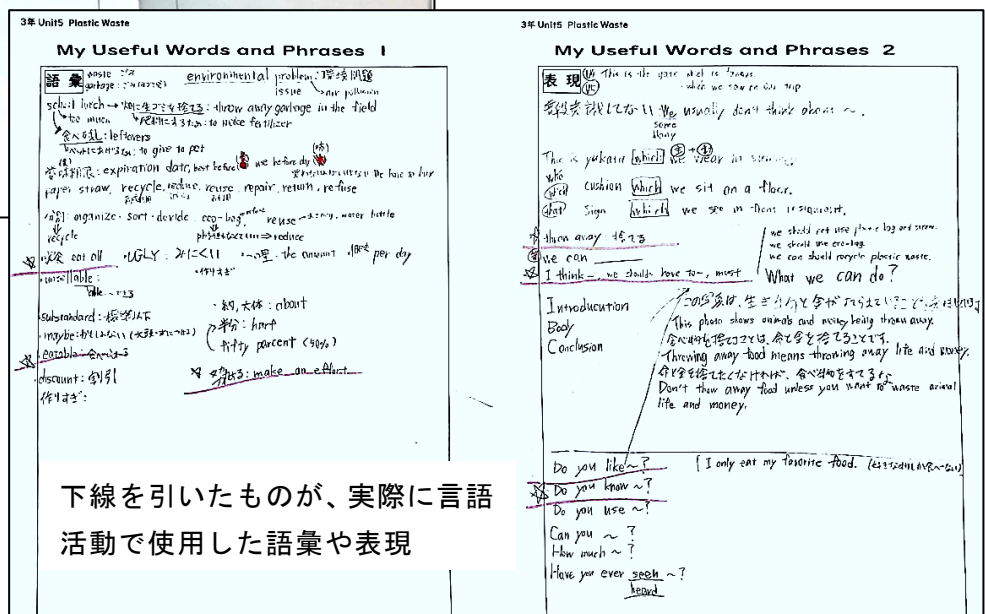


【資料 2】生徒 C の単元を通じた MUWP の変容

授業が進むごとに、語彙や表現を蓄積していくようにした。単元末の言語活動終了後には、MUWP 上にある語彙や表現のうち、実際に言語活動で使用したものに印を付けることで、語彙や表現が増えたことを自覚できるようにした。



1 時間目終了後

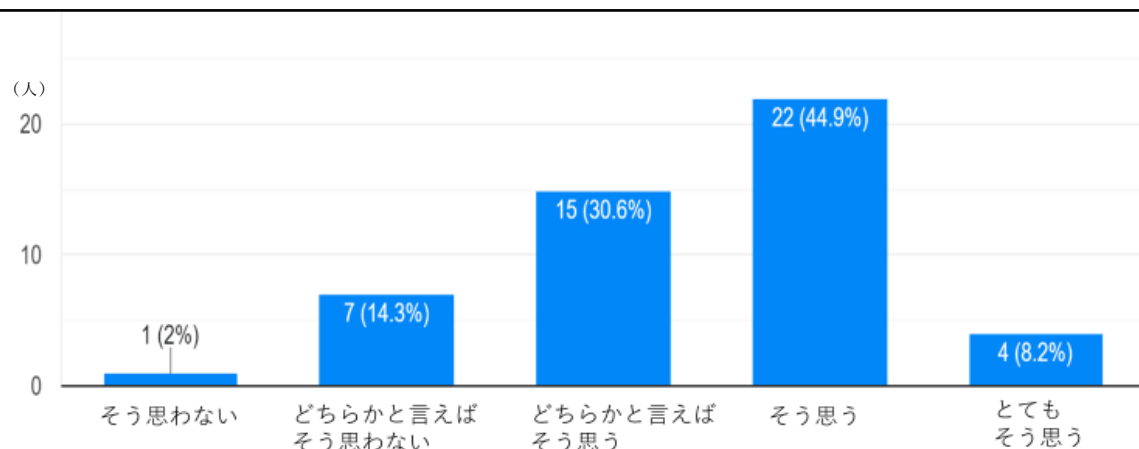


下線を引いたものが、実際に言語活動で使用した語彙や表現

單元末の言語活動終了後

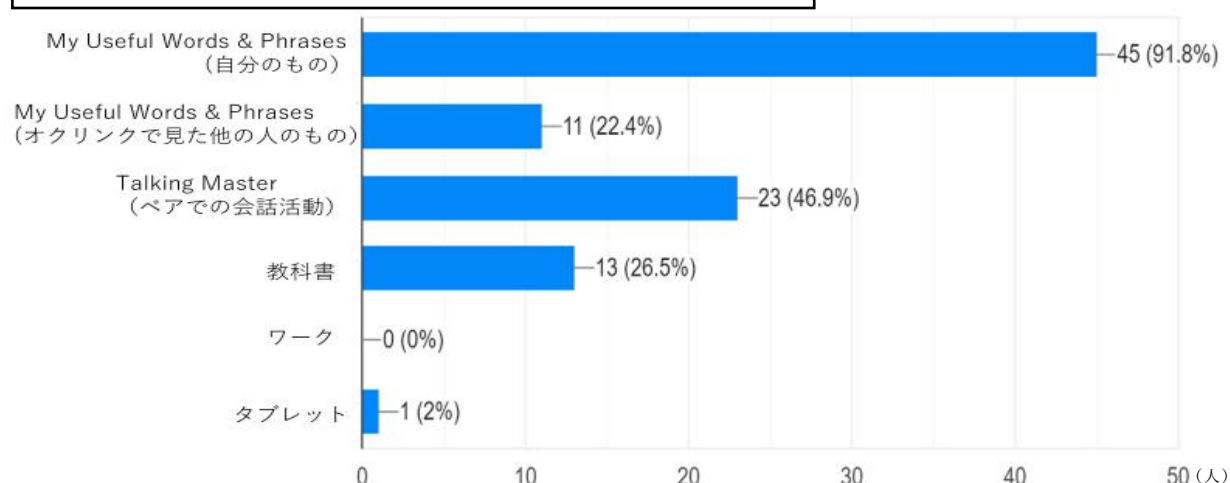
【資料 3】会話活動に関するアンケート結果

(設問) 会話活動1⇒中間評価⇒会話活動2の流れで会話をしました。会話1より会話2の方が良くなっていたり中間評価で得られた語彙や表現を使ったりすることができましたか？



【資料 4】My Useful Words & Phrases に関するアンケート結果

(設問) プレゼンテーション作成に役立ったものは何ですか？



<参考文献>

- 群馬県教育委員会(2019). たくましく生きる力をはぐくむ はばたく群馬の指導プランⅡ
- 瀧沢広人(2019). 小学校英語サポート BOOKS 英語教師のための Teacher's Talk & Small Talk 入門—40 のトピックを収録! つくり方から使い方まで丸ごとわかる! 明治図書
- 瀧沢広人(2021). 中学校英語サポート BOOKS 苦手な子も読める! 書ける! 使える! 中学校の英単語「超」指導法 明治図書
- 水谷大輔(2018). 中学校英語サポート BOOKS 帯活動で書く力がぐんぐん伸びる「3 分間英作文」の指導アイデア 明治図書
- 光村図書「Here We Go! ENGLISH COURSE 3」(令和 2 年検定済)
- 文部科学省(2018). 中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 外国語編
- 山田誠志(2018). 自分の本当の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業—使いながら身に付ける英語教育の実現— 日本標準